

公民館だより なかがわ

第479号

令和4年9月30日

発行 中川地区公民館

TEL. Fax : 679-2501

誰もが安心してずっと住み続けられる 「中川」をめざして!!

9月26日(月)、地区住民の安全で快適な暮らしを守るため、事業の促進及び早期の着手をお願いすることを目的に、横戸上山市長に、4件の項目を記載した「要望書」を手渡しで提出しました。今回も昨年同様、コロナ感染予防で密を避けるため、松田地区会長会会長と齋藤副会長及び事務局の3人での訪問となりました。市長より、要望の中でも今年度計画している事業もあり、また、できるだけ地区民の要望に応えたいとの言葉もいただきました。その後、関係課へ出向き、同じ「要望書」を提出してきました。

これからも地区民が、安全で快適に生活できるよう、県も含め要望活動を継続していきたいと思います。



ウォーキング教室 「街中ウォーキング」



8月31日(水)、第5回ウォーキング教室「街中ウォーキング」が会員12名の参加で開催されました。前日の雨の影響もなく残暑の中、蔵王テラポイト協会の押野さんを講師に迎え、湯町・紫苑庭・栗川稻荷神社・大國屋・かかし茶屋と散策。その土地の歴史の話を聞きながら、普段車では通れない道を歩き『こんな道があったとは!』『知らない道!』と皆さん驚いていました。時には違う道を歩いて発見してみるのも楽しいのでは?!と思いました。

9月2日(金)、7月にお世話になりました、鈴木先生に再びお越しいただき、単発講座「第2弾マクラメ編み」の1回目が7名の参加で開催されました。初めての方は「キーホルダー」を作成し、前回参加した方は、それぞれ大作に挑みました。2時間ではとても終わらないため、2回目へと続きます。もくもくと編んでいく作業ではありますが、皆さん楽しく編んでいました。

単発講座「第2弾マクラメ編み」





少年少女球技大会!!



9月25日(日)に中川地区子ども会育成会連絡協議会主催による「中川地区少年少女球技大会(グラウンドゴルフ大会)」が、子供たち15名の参加で開催されました。台風の影響で天候が心配でしたが、爽やかな晴れ渡った空のしたで、試合開始のブザー音でゲームスタート!!1ゲーム目はうまく入らず奮闘していましたが、2ゲーム目にはコツを掴んで楽しくできるようになりました。『もっと強く打っていいよ!』『次、入るよー』とお互いに声を掛け合いながら、楽しくプレーをしていました。お忙しい中お手伝いいただきました役員の皆様、子供たちに付き添っていただいた保護者の皆様、ありがとうございました。来年度も開催できるように子ども会育成会、公民館ともに協力して進めていきたいと思いますので、楽しみにしてください!!



大会結果



男子

1位 小林 璃空さん
2位 齋藤 学志さん
3位 山田 零穂さん

女子

1位 鏡 沙羅さん
2位 木村 美月さん
3位 松浦 りおさん



女性学級きらい

9月13日(火)第6回女性学級きらいでは、会員8名の参加で、「パステルアート」体験教室が行われ、パステルアートゆず丸工房の三瀬まゆみ先生よりご指導頂きました。画用紙の上にパステルの粉を削り、指を使って描いていきます。また、消しゴムを使ってやり直しができるのも魅力です。先生のお手本はあるものの、自分の好きな色や形で思い思いに描いていきました。一人ひとり個性あふれる素敵な作品が出来上がりました。



~出来上がりました!~

8月23日(火)に行われた、第5回女性学級きらい「ガラスフュージング体験教室」での作品が出来上がりました。どれも素敵な作品ばかりです!ぜひお出かけの際につけて下さいね!



粋いき倶楽部

9月22日(木)第5回粋いき倶楽部は、明治安田生命の加藤順一氏を講師としてお迎えし、「睡眠と健康の知恵袋講座」が、会員15名の参加で開催されました。睡眠について知るための「睡眠あるあるクイズ」や、自分の「睡眠タイプ」を知って良い睡眠につながる行動やコツ(食事・入浴・体操などについて)を学びました。すぐに実践できることはぜひ取り入れて、良い睡眠を実感したいですね!!



中川地区防犯診断

9月9日(金) 今年も安全で安心して暮らせる中川地区を目指し、中川地区防犯診断が行なわれました。今年は「金谷地区」を対象に診断日を公開して行い、自動車、バイク、自転車の施錠確認を調査しました。

金谷地区での防犯診断は7班に分かれて156台チェックし、施錠不良44台という少し残念な結果となりました。常日頃の心がけが大切です。今後も防犯意識を高く持ち、安心安全な住みよい金谷地区また、中川地区にしていければと思います。



お知らせ

上山市青少年

ミニバスケットボール大会中止のお知らせ

令和5年1月7日(土)、8日(日)に開催を予定しておりましたが、現在のコロナ禍での開催は難しいという判断に至り、中止となりました。

福祉村文化産業まつり開催

9月14日(水)に福祉村村長、助役、収入役はじめ、各代表者に出席していただき、福祉村文化産業まつり「代表者会議」が開催されました。昨年も感染対策をしっかりすることで開催できたことから、今年もまた、消毒、マスクはもちろん、参加者の把握、密にならない工夫等をした上でできると判断し、開催が決定いたしました。感染状況を見ながら、状況によっては、変更・中止等もあるかと思いますが、11月5日(土)6日(日)の開催に向けて準備を進めていきたいと思っています。皆さん、ご協力の程、どうぞよろしくお願い致します。

福祉村産業まつり次回会議

・10月12日(水) 19時～
実行委員会



募集中!

詳しくは、地区回覧チラシをご覧ください!

単発講座 「スマホ教室」

日 時 10月24日(月) 13時半～15時
場 所 中川地区公民館 集会室
参加資格 中川地区民 10名まで
内 容 初心者向け基本操作
参 加 料 無料
申 込 10月13日(木)まで、
公民館へお申し込み下さい。

中川地区公民館トイレ バリアフリー化工事のお知らせ

期間：10月5日(水)～12月15日(木) 予定

工事期間中は公民館のトイレが使用できません。大変ご不便をおかけしますが、中川地区農業者等トレーニングセンターのトイレをご使用ください。



行事予定

10/4(火) 第7回そば打ち教室
三者会、中川地区会長会
公民館運営協議会
10/7(金) 第7回パソコンクラブ
10/12(水) 福祉村文化産業まつり実行委員会
10/14(金) 第7回女性学級きりり
中川地区地域推進会議
10/17(月) グラウンドゴルフ愛好会大会
10/18(火) 体験スポーツ講座「シニアヨガ体験会」
10/21(金) 第7回ウォーキング(職員不在時間帯あり)
市長と語る車座ミーティング
10/24(月) 単発講座「スマホ教室」
10/25(火) 第6回粋いき倶楽部(職員不在時間帯あり)
10/28(金) 単発講座「マクラメ編み」



詩吟教室(火曜日) 10/4、11、18
ピンポン愛好会(木曜日) 10/6、13、20、27
スポーツ麻雀愛好会 10/1、15(土曜日)
10/27(木曜日)
グラウンドゴルフ愛好会(月曜日)
10/3、11(火)、17(大会)、24、31



行事予定

11/1(火) 市報・館報
11/2(水) 三者会、中川地区会長会
公民館運営協議会
11/4(金) 第8回女性学級きりり
11/5(土)～6(日) 福祉村文化産業まつり
11/8(火) 第2回自衛消防訓練
11/14(月) 第3回子ども会育成会
11/15(火) 先進地公民館視察研修会
11/18(金) 第8回そば打ち教室
11/22(火) 第7回粋いき倶楽部(職員不在時間帯あり)
11/25(金) 第8回パソコンクラブ
防犯協会中川支部研修会
詩吟教室(火曜日) 11/1、8、15
ピンポン愛好会(木曜日) 11/10、17、24
スポーツ麻雀愛好会 11/12、19(土曜日)
11/24(木曜日)
グラウンドゴルフ愛好会(月曜日)
11/7、14、21、28



体験スポーツ教室「シニアヨガ体験会」

10月18日(火) 10時～開催予定 若干名空いています!
興味のある方は、公民館までお問い合わせ下さい。

おらほの中川〈地域の話題シリーズ 第百六十八弾〉

「昭和考、問わず語り（その20）」

〈男尊女卑の社会であった〉

昭和の改元時の男女関係は、依然として江戸時代から続く儒教思想が根強く残った、男尊女卑の社会であった。

民法では、不倫の場合男性は責任を問われず、（中略）自由恋愛自体は犯罪ではなく、恋愛を題材とした小説や演劇、映画は多かったが、自分の子どもに自由恋愛を認める親はほとんどいなかった。

人前で男女が手をつなぐなど不道徳きわまりないというのが大半の大人の意識だった。夫婦で外出する時も、夫が前で妻がその後を離れて歩くのが普通だった。女性は、農林水産業においては古くから男性と同じように労働に従事しつつも、家事も担わされ、男性以上に苦勞の多い立場であった。一方近代的な制度のなかでは、学歴の低い若い女性は工場の単純労働者として重視されたが、高学歴の女性は活躍の場が狭かった。

小学校教員を除き、役所や会社ではほとんどの場合、女性は補助的な役割であった。工場労働者の場合も男性より給与は低く、上級学校への進学率も女性の方が低かったし、女性のための上級学校（高等女学校、女子専門学校など）の教育目的は、女性の社会進出ではなく、「良妻賢母」つまりエリート男性の妻として家庭を適切に経営管理し、賢く育児をする有能な専業主婦の養成だった。（古川隆久著「昭和史」ちくま新書刊より）

〈売春が公認される社会だった〉

昭和改元期には、国家が売春を公に認めて管理する公娼制度が存在し、ほかに密かに売春を営む私娼が存在した社会であった。以下、この公娼制度について、「昭和二万日の全記録」（講談社刊）等によって記述する。

明治以来、政府は、娼妓、遊女などと呼ばれる女性を特定の場所（遊郭）に集め、鑑札を与えて営業を保護し、定期的に梅毒などの検査を行い、警察が監視をする一方で、遊興税などの名目で課税して、地方自治体の収入としてきた。

（中略）娼妓はどのような出自の女性たちだったのか、大正十四年各府県警察部の調査によれば、調査数一万七千六百十三人のうち、農業三千五百五十二人、工女

一千七百九十七人となっており、何らかの事情で七十二・五%が小学校を卒業していない人たちが多かった。さらに娼妓となる動機は、四十四%が家の借金の返済、二十%が家族の死亡・病気のため、十%が家族の扶養のためとされている。彼女たちの多くは、まさに貧困ゆえに身を落としたのである。娼妓を廓に縛り付けたのは前借金であった。（中略）娼妓たちは廓の営業主（楼主）へのこの借金の返済のために、過酷な生活を強いられた。ある娼妓は、大正十四年に楼主に六百円を前借して娼妓となったが、毎月懸命に働いても、一年後に借金総額は約六十円しか減っていないかった。その理由は、毎月本人の所得から四六割近くが借金利子及び組合費名目で差し引かれたからである。楼主たちは、娼妓たちに衣装代、道具代、薬代などの名目の支出を強要し、廓に縛り付けたのだった。（昭和二万日の全記録「講談社刊より」）

〈廃娼運動、公娼の廃止〉

廃娼運動は、明治八年埼玉県令・白根多助より始まり、その後新島謙一のキリスト信者を中心として粘り強く進められ、昭和三年には、埼玉県会において公娼制度廃止を決議し、以後順次各県で決議された。しかし、この間も娼妓の数は増え続け、「東京最大の遊郭・吉原では、明治十八年の一千五百七十四人だったのが、同三十一年には約二倍の二千九百二十九人となっている」（昭和二万日の全記録「講談社刊より」）

婦人参政権運動も第一次大戦後に始まっていたが、廃娼運動に対しては男社会の抵抗が強く、実質的な進展はみられなかった。「昭和初期の調査では、公認された娼妓の人数は、内地で約五万人、売春公認区域の数は、内地で一万千五百五十四ヶ所を数えた。」（古川隆久著「昭和史」ちくま新書より）

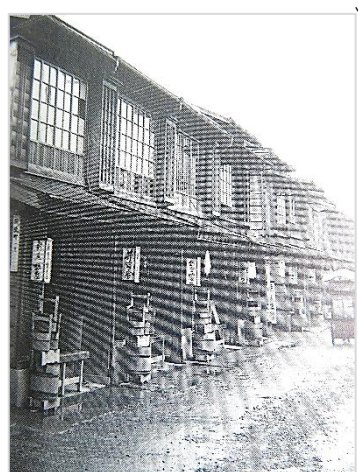
その後この公娼制度は、遊郭は社会にとって必要悪であると主張する存娼論が根強く存続し、昭和二十一年のGHQによる公娼廃止令、昭和三十一年の売春防止法の成立まで続いた。

甲石地区 高橋 正之

写真①は、昭和初期の引手茶屋。この茶屋は遊郭の一角にあった茶屋の一種で、客が酒や食事を楽しみ、茶屋の者が客を遊郭に案内した案内茶屋だった。写真②は、東京浅草の江戸時代から続いた新吉原の遊郭地である。（昭和二万日の全記録「講談社刊より」）

昭和三〇年代後半、筆者が山形市内の高校に通学していた頃、学校帰りに古くから遊郭街と言われた小姓町を通った際、写真①のような建物はまだ残っていたのを記憶する。（次回は、娯楽、映画、文学等について記述する予定です。）

（写真①）



（写真②）

